

申請者	学科名	大学教育開発センター	職名	特任教授	氏名	田内 雅規
調査研究課題	教員・学生・地域社会人のためのプロジェクト企画及びマネジメント国際セミナーの実施					
調査研究組織	氏名	所属・職		専門分野	役割分担	
	代表	田内雅規	大学教育開発センター長	教育	企画 実施	
	分担者	児玉由美子	デザイン学部准教授	環境芸術	企画	
調査研究実績の概要	<p>日時：平成27年10月10日（土）、11日（日）各9:00～17:00、10月12日（月）9:00～16:00 会場：岡山県立大学 本部棟大会議室 講師：田中 弘（パシフィック&アトランティック PM イノベーション代表） 参加者：29名（教員：5名、職員：3名、学生18名、一般3名）</p> <p>今回は、世界中の大学などで講義を行っている田中弘先生を招き、プロジェクトマネジメント（PM）の基礎を講義頂いた。多人数で執行されるプロジェクトとは、期限の切られた建設的事業を無駄なく計画的におこなう技法で、世界中ではPMがもつ基本的な手法で行われている。</p> <p>PMは社員旅行計画など、小さなことにおいても応用可能で、海外では中高生においても習得されているが、日本では、企業以外では普及していない。今回の授業では、田中先生により英語と日本語で解説を受けた。また、岡山県立大学に関連する企画を進めるという課題のものの、参加者による課題解決への実践実習を通して、PMの技法を学んだ。時間内では課題をこなせず、多くの参加者は毎夜遅くまで残り、プレゼンテーションの準備をグループ・ワークで行い、見事に英語によるプレゼンを成功させた。参加者全員、このような体験は初めてで、充実感に満ちていたとアンケート結果から推察された。これは典型的なアクティブ・ラーニングで、このような体験は、一般社会、とりわけグローバル企業に就職していく学生にとってのキャリア形成に大変役立ったものと思われる。</p> <p>3日間研修を受けた参加者には修了証書が渡され、これは今後の参加者のポートフォリオの一部となると思われる。今回、学部1,2年の学生から、教員社会人まで一緒にプレゼンを完成するために、討論を重ねたことは、社会と学生の重要な交流の例になったと考えられる。また、世界中の学生との講義・交流の様子をスライドで示し、今回の講義が世界に通じていることを学生は実感できたと思われる。</p> <p><アンケート結果> 回答：18名（学部生9名、院生：3名、教員：2名、一般：4名） セミナーのテーマについての満足度では、全員から肯定的な回答を得られた。アンケートでは、 「実用的テーマなので満足（学部生）」、「英語で学ぶという形式で、広い視野で講義内容を受け取る意識を持てた（学部生）」、「学部生より教員・職員が学ぶべきことでは（一般）」などの意見があった。また、講師の説明についても全員から高い満足度との回答があった。主な意見として、「理解度をたしかめながら講義を進めていただいた（学部生）」、「難しい内容でもこちらが退屈しないよう、配慮を感じられた（学部生）」、「世界の情勢や社会観察の方法など詳細な情報提供と多くの示唆を盛り込んでいた（一般）」という意見がある一方で、「もう少し英語での説明を聴きたかった（院生）」というより英語の講義を願う意見もあった。</p> <p>また、「スライドから、世界中の教え子の方々の写真を見せていただき、自分も頑張って学ぼうという意識を持てた（学部生）」、「英語のスライドと一緒に日本語訳が付いていたため理解が深まった（学部生）」など英語による講義に対して積極的な意見が目立った。</p>					
	地域貢献への反映を踏まえて記述のこと					

また、「グループワークでも良かった（院生）」という意見があった一方で、「セミナー後のグループ演習が思っていたよりも時間がかかった（学部生）」「グループ発表の準備時間はとても短かった（院生）」と、グループワークに時間をかけたかったという大方の参加者の意見のようであった。

講演全体としては、「自分の知らないものについて学び、講義自体も英語と日本語両方であった（学部生）」「英語だけでなく日本語でも解説していただけたのがわかりやすかった（学部生）」「PMについて、また英語について学ぶところが多く、グローバルな感覚を少し身につけることができた（学部生）」「色々な学年や学部の人とグループワークが出来て、とても貴重な体験が出来て良かった（院生）」、「世界経済の状況や問題点等、業務で知り得た情報や必要と思われる情報と関連付けをすると、現状の理解や分析に非常に有益な内容であった（一般）」など、本学の環境では普段味わえなかったものを体験できたようであった。

また、自分の無知さを痛感してこれからもっと勉学に励まなければと感じた（学部生）」、「英語の力を伸ばしたいと思っていたので学べた（学部生）」、「PMは個人的な小さな計画から、大規模なプロジェクトまで幅広く応用できるものなので、その初歩的な知識を得ることができ、とても有意義だった（学部生）」など、今後に活かしていく決意が汲み取れたが、「自分の中に吸収できたかどうかかわからない（学部生）」、「PMの知識と英語力は応用が利きそう（院生）」「福祉の分野でも取り入れることが出来るのではないかと感じた（院生）」など「今の自分の仕事を進める上で有効に活用できるもの（教員）」という今後に対しても成果を応用しようとする意見が目立った。

セミナーは全体を通して有益との意見は様々で、貴重なものばかりなので、以下一部を箇条書きにした。

- 「自分の知らない内容について、今まで接したことのない方々とともに学び、グループ演習を取り組むことができたから（学部生）」
- 「普段の生活では味わえない空気を感じられたので（学部生）」
- 「プレゼンテーションのテンプレートの使い方がわかるようになったから（学部生）」
- 「新たな知識を無料でつけることができたことはとても大きいと思ったので（学部生）」
- 「デザイン学部」を持つ「地方」の「公立大学」において「英語」で「経営」のスキルを学ぶということは、それ自体が社会的価値を有するものであるから（学部生）」
- 「講演や演習の内容はもちろん、慶應大学からアシスタントで来た瀧本さんと交流できたことが、自分にとってはとてもよい経験になった（学部生）」
- 「知らない人とグループを組み、学んだ知識を生かせるように演習を行なったことで、理解が深まり知識が身についたと感じたため（学部生）」
- 「内容を吸収できていなかったとしても、スライドや証明書など、形に残るものを手に入れたことや、間違いなく普段経験できないものだったから（学部生）」